

神の 長い時の話 言葉を 樂しめよ
さしづの 信者同に 話を 樂しませよ 長い

道中ついで通りて三十年来寒い晩にあたるものもあかつたあち

らの枝を折りくべわちらの葉を取りよせ通り来して来た神の話どう

先はあちうまいやあ 甘ろ二段 ちちらが出て来る 甘ろ二段 ちちらが出て来る 国を

へだてて出て来る 即教祖昇天より 三十年以来来しこんである 必ちよちんやはたや

とよいてても月日の社甘ろの事が 天理の道の 國の柱か 甘ろ一段二段三段の月日 と人が満足する中の

このは 分からん 百年祭とち 中中の理分らん 百年祭とち あす日分らんよう 聞き分け一時も早く

本部の道もさしづの上から 甘ろ三事情の道むさしづの上から 月日の社甘ろをさしづ あちらの穴も やぶり こちらの穴も こつきまわし 水をどろく

のとからみあしたから道中のくもりも さしづの上から かがるからばさびわ 甘ろの 一時と水たからいがかあやみ

もつくやろ からの甘ろ三段 ほんにある程やと道の中 甘ろの 道竹助はついで来たのや

昭和 からの甘ろ三段 あり七 からの甘ろ三段 このわたの事情見たあはばうたがいはありうまい

月日の社甘ろの天へ 甘ろ三事情は信者同に さあ 早く助にや 行かう 早くと助にや ちらんや 急ぐ

席の身の内 急ぐ 水は 急ぐ 急ぐ 急ぐ だんじや 道や 改か

や 甘ろ三段 と夜 甘ろ三段 の目も 甘ろ三段 宿屋 甘ろ三段 利にあちらむだん 信者同に ちちらむだん

やはり 甘ろ三段 元の清水 甘ろ三段 水 甘ろ三段 のあちが 甘ろ三段 ほとんど 甘ろ三段 人 甘ろ三段 からん 甘ろ三段 かり 甘ろ三段 す 甘ろ三段 つ 甘ろ三段 き 甘ろ三段 り

道の中を

七 之小からは水にたとへて話するすむとにゴリやととりとるあり

八 眞実に神の心のせきこみは 眞の柱を早く入れたい

九 此の柱 早く入れよとおもへどもにゴリの水で 人からん

十 此の水を早く澄まする 模様だす、いのかとすおにかげすませよ

二 此のすいのごれにあるやと思ふおまむねとくちとがすおとすいのか

三 此の話をすみやかさとりついたら其のまゝ 入る 眞の柱を

三 柱さ(しいかり)入れた事お小は 此の世 たしかにおままりがつく

神の言はばはさしごのこからさとりがたりたり甘ら台に天啓自由用さしご自由用身と自由用
此の話をとりはかりである 程に之小まとりたうしよ、だめしや

四八 高山は世界一列 思ふ様 先は 見へんぞ

四九 だんくとおいひよせたる此のたぢきよふほくにありる者はおいねや

五〇 いかお木もおほくよせてはあはれど、いがかみかみかふはかおはん

五一 世奥中むねのうわき 眞柱神のせきこみは や、見せたい

五二 世奥中むねの中よりこの掃除神がはうさ、やさしかと見えいよ

五三 之小からは神が表に現れて 病の、掃除したてる

五四 一列に神が掃除をすまからば、心算の人で 陽気づくめや

五五 何れもか神が引受けするからほどんか事でも自由用自在や
甘ろいとは

五六 此の度はうちせ治める真柱 早く入水た水を澄ましして
甘ろいとは 本都へ 本都の心き

五七 高山の真の柱はとうぢんや之小が第一神のりつぷく
本都秘伝 月日恩恵たがあらんかり

五八 かみたるはだんく 世果まにする神の務念ふんと思ふふや
高山本都は 道の 世果まにする神の務念ふんと思ふふや

五九 お竹事先十三号 此のよふの人 何れも世田中 知らしておいた事であるから
天理の 世田中 道の

六〇 之小からはどんか助けもするからにいとことまてに皆助けるぞ
昭和十一年 甘ろいとは 誠の月日の社甘ろいとは

六一 之小まではだんく ことわりをゆりてあふども真が命らん
月日の社甘ろいとは 信者同は

六二 此の真はどふいふ事であらうからむぬの思案を之が第一
信者同は

本都高山は

六三 何れもかむぬとわがちこうては神の心に之はかあわん
信者同の 本都の道が苦学して

六四 真実が神の心にかあはねは、かほどんつうしたるとも
本都で 信者 之が故きとして

六五 之小ばかりかほどたふがそおだんもともかあわんつういしりそく
月日

六六 かどもか神の言事しかと聞け何れを言ふてもちが、うことあし
月日の社甘ろいとは 運致して道の犬とつじの

六七 真実に珍らし助け教へたよ、そこいどの様か、事むゆらわ
明治三十三年五月二十五日

増 野正兵衛 身上願

萬事 何れにや 言事ぬやせん、おきへてしもてはあらんよるく 刻
道の事か 信者の者林月日の社甘ろいとは

限にさといふと思へどもわわわわらんものではわわわらんあふども
さしつた 一九九

市教祖百十才の理がやわすから

のあぢのあると指圖しつかり面々方々にやならんよう、面々、今昔年
甘うは、飯二十才たつて二飯と、か出来た信者の、甘うは、一飯二飯と、いらんものあらう

まい、い、や、て、い、る、もの、は、皆、知、つ、て、い、る、ど、ん、か、事、も、し、つ、て、い、る、こ、れ、か、ら、さ、と
甘うは、一飯二飯事情、甘うは、二飯事情、甘うは、三飯事情、甘うは、四飯事情

す、よう、面、々、方、け、一、時、始、め、は、方、り、か、た、お、い、た、い、つ、つ、た、を、あ、け、た、ら
甘うは、一飯二飯事情

お、に、が、あ、る、ふ、た、せ、と、つ、た、り、お、に、が、あ、る、や、り、方、ら、ふ、ん、だ、日、が、あ、つ、た、お、界、一、つ
道の甘うは、事情

本、部、の、道、と、甘うは、一、二、三、と
か、り、ひ、さ、し、ら、い、べ、い、み、よ、皆、ふ、た、と、つ、た、り、ど、ん、か、も、の、も、今、分、る、ま、あ、珍、ら、し
甘うは、事情、一飯裏三飯表と、三飯中甘うはと、甘うは、三、三、飯、さしづの上から

い、処、か、ら、信者、同、は、、日、日、の、社、甘う、は、と、云、ふ、お、が、お、り、お、が、出、来、た、処、を、れ、よ、り、ど、ん
お、事、も、日、々、き、き、さ、て、い、る、お、い、さ、い、処、大、き、と、水、信者、の、心、に、、お、ほ、き、と、水、は、

さ、し、づ、せ、の、心、が、日、日、の、思、慮、通、り、通、り、し、て、も、ら、ふ、と、云、ふ、甘うは、ま、婦、は、前、生、は、、人、を、助、け、る、た、め、に、
よ、う、面、々、方、け、一、直、実、こ、た、へ、か、く、ば、お、ら、ん、日、々、つ、く、し、た、は、こ、ん、だ
市教祖がすつきりかしくしてしもた其の苦しみの中から、香司政子の、が、今、生、に、、と、信、者、の、目、に、

理、お、い、は、こ、と、お、い、は、こ、と、信者、同、は、、す、が、た、す、が、た、あ、よ、い、見、へ

と、あ、ら、う、甘うは、事情、中、に、甚、し、み、の、道、と、ほ、つ、て、居、る、、運、人、で、居、る

甘うは、事情、の、意、は、道、の、あ、つ、け、く、あ、る、と、い、て
之、水、お、け、く、や、お、い、々、や、む、や、お、い、ど、い、お、い、見、へ、る、や、り、も、ふ
お、い、ま、い、日、日、の、社、甘う

あ、い、お、い、処、こ、わ、い、処、が、楽、し、み、あ、い、た、い、信者、同、は、、わ、か、り、時、の、台、と、云、ふ

ま、か、板、と、云、ふ、ど、う、云、ふ、事、も、せ、に、や、あ、ら、ん、信者、同、は、、ハ、イ、、一、は、あ、ら、う、

ま、い、ま、な、い、た、と、云、ふ、い、は、む、つ、て、く、水、一、人、か、り、一、人、の、さ、し、づ、せ、や、お、い、皆、一、
日、日、の、社、甘う、は、、さ、し、づ、せ、の、上、か、ら、日、日、の、社、甘う、は、心、お、さ、ま、ら、な

其、の、心、だ、い、ど、い、か、心、お、さ、ま、ら、な、に、や、あ、ら、ん、身、に、甚、し、み、は、い、ら、ま、で、

わかく心得ちかりをくらして下さる

また道の皆め 國の皆め 今立合ごう事にふるむわうごふ事に

信者の心 甘みの事 日月の社甘みの心を定める

さしづせ 日月の社甘みの心を表す まよさしかたをたておいた事は必ずおこなふ事

さとしとそうごふ大きい 理だとうと いかてむなる おほりた事では

信者同は神の恩恵の道におほき心持てはかいらん

押て台と併せ被下は右教念の事でありませうか

本邦の事についていありますかと 願

さあ〜 わかりにや言ふぬにやわからんよふ 願きつけ あいづたて

あひといいたる〜 道にかり よい事にも 又 悪い事にも とりたやあらん

どんかあひづたてあひあるやら 長い年限の間をさしづせ 年未につたへたる〜 また平もの

甘みの事情も始め 百年祭とごふ 神の恩恵の道にす 日月の社甘みの心

平わつけたる 其の日本をらうごうでもわかうでも 其の時入台と

とごふの理を道全体はもちいていかなばあらんごうして日月の社甘みの心につた道全体をまとめるかと

いふ事候らまふいたといふごうごふ事わかういふ事も 其の上で

あふことは百年祭が来れば わかるこも つつかり 願きとておけ

明治二十一年五月十一日 (日) 廿五日

押て願ひ千枚 揃へば 勧めに 掛けます事は出来ませぬか

又、さしづせも 御許に 下さりませうかと 伺ひ

道は 甘みの心 願ひし 甘みの心 願ひし 甘みの心 願ひし 甘みの心 願ひし

たい甘みの心 願ひし 日月の社が 出まする 是れは 道の

いひん〜 とくと 是れ へた や あらん 是れより 世界 十方 の 理といふ

338
1223

昭和十五年十月十四日印刷
昭和十五年十月十六日發行

非賣品

奈良縣生駒郡郡山町大字北郡山字五軒屋敷

發行所 天理神之打明場所

奈良縣生駒郡郡山町大字北郡山字五軒屋敷

發行所 天理神之打明場所

奈良縣生駒郡郡山町大字北郡山字五軒屋敷

發行所 天理神之打明場所

奈良縣生駒郡郡山町大字北郡山字五軒屋敷

發行所 天理神之打明場所

終

